

～地域の子どもたちに夢と誇りを！～

“青木繁《海の幸》100年”から 布良・相浜を見つめる集い

「彗星のごとく明治画壇に現われた」と評された天才画家・青木繁が房州富崎村の小谷家に滞在し、衝撃のデビュー作品《海の幸》を描いたのは1904年のこと。黒潮と親潮のぶつかる房総沖は豊かな生態系に恵まれた漁場であり、布良・相浜はマグロ延縄漁の発祥地でもあった。灼熱の太陽、憧憬をかきたてる大海原、男たちの頑強な胸板は、芸術を開花させるに十分な刺激にあふれていた。鬼才とまで呼ばれ、苦悩しながら駆け抜けた青木繁の28年の人生において、古代から夢とロマンにあふれた布良・相浜の漁村はどれほどのインパクトを与えたのであろうか。この地を愛した青木繁の視点を検証しながら、布良・相浜の“海の幸”を語り合おう。

…《海の幸》は国の重要文化財…

日 時：2005年12月4日（日） 10:00～11:30／13:30～16:00

会 場：館山市立富崎小学校 体育館

参加費：フィールドワークは100円（保険代）、講演資料は300円

内 容：① フィールドワーク ～ 《海の幸》ゆかりの布良を歩く

② 富崎小学校児童による『安房節』演奏、『海の幸』について発表

③ スライド講演 東京文化財研究所研究員 田中 淳氏

「ブリヂストン美術館特集展示 “青木繁《海の幸》100年”を語る」

④ 座 談 会

愛沢伸雄（館山市小原在住、NPO法人フォーラム理事長）

小谷 栄（〃 布良在住、青木繁が滞在した家の当主）

豊崎栄吉（〃 布良在住、布良神田町区長、船吉造船主）

船田正廣（〃 北条在住、彫刻家、館山美術会顧問）

山口栄彦（〃 布良出身、川崎市在住、エッセイスト）

吉田昌男（〃 相浜在住、富崎地区連合区長会々長、元マグロ船機関長）

コーディネーター 池田恵美子（〃 宮城在住、NPO法人フォーラム事務局長）

主 催：布良・相浜の“海の幸”を語る会

NPO法人南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム

共 催：富崎地区連合区長会、富崎地区コミュニティ委員会

後 援：館山市、館山市教育委員会、館山美術会、館山市芸術文化協会

館山ユネスコ協会、たてやま・コミュニティビジネス研究会

NPO法人全国生涯学習まちづくり協会、社団法人漁村文化協会

問合せ先：0470-24-0224 / 090-6479-3498 / npo@internet-ex.com



船田正廣『レリーフ 海の幸』2004年制作

— お誘い —

館山市には、明治の頃より多くの美術家が訪れ、風景、自然を題材に作品が残されていますが、なかでも明治37(1904)年に布良の地で制作された青木繁の「海の幸」は、昭和42(1967)年に国の重要文化財に指定され、広く知られています。

昨年、2004年はこの作品が描かれてから100年になることから、独立行政法人 東京文化財研究所と石橋美術館(福岡県久留米市)が共同調査研究事業を実施され、「海の幸」縁の地の布良でも同年8月に現地調査が行われました。

その成果は、約1年がかりで報告書にまとめられました。また、東京・八重洲のブリヂストン美術館で9月17日から10月10日までの間、特集展示「青木繁-《海の幸》100年」で公開されました。私もこの展示を観覧しましたが、ふるさと布良の誇りでもある「海の幸」の迫りに圧倒されました。

報告書については、館山市内の子どもたちには是非とも活用して欲しいとのご好意により、独立行政法人 東京文化財研究所から26冊もの多く部数をご寄贈いただきました。市内の各小・中学校のほか、館山市図書館や地元の富崎地区公民館で閲覧できますので、地元の皆様方におかれましても積極的に活用されるようお願いいたします。

こうした一連の出来事のなかで、このたびの「集い」は近代日本美術史に大きな足跡を残した画家・青木繁と館山との縁を再認識し、明治期以降、多くの美術家が訪れ、当地の風景、自然が題材となった作品が残されていることをさらに再発見する素晴らしい機会になると思います。

ふるさと館山の歴史に対する理解を深め、美術家の題材にもなった、館山市民が誇る美しい自然環境を、次の世代の子どもたちに伝えるためにも、この「集い」に多くの市民の方々が参加されることを願っています。

館山市教育委員会教育長 三平 勉

私は布良の生まれです。今は川崎市の北部、読売ランド近くに住んでいます。私は富崎国民学校6年を終え、安房中学(現安房高校)に入った頃から、布良や相浜は何も無い土地だと馬鹿にしてきました。しかしその後郷土を学ぶなかで、富崎地区の漁師が日本で初めてマグロの延縄漁を開発したことや、明治の天才画家・青木繁が国の重要文化財に指定された《海の幸》を描き、「相浜は詩に出てくるような地名だ」と褒めたことなどを知り、私は郷土に対する認識を改めたものです。

去る9月27日、私は、富崎地区連合区長会々長の吉田昌男さんと布良神田町区長の豊崎栄吉さんご夫妻と一緒に、東京・京橋のブリヂストン美術館で開かれた特集展示「青木繁-《海の幸》100年」を観覧しました。3月に発行された豪華な美術研究作品資料・第3冊『青木 繁《海の幸》』東京文化財研究所、石橋財団石橋美術館 編(製作:中央公論美術出版、税込価格12,600円)には、私の著書『鯨のタレ-伝統食文化と房総の漁師たち』(多摩川新聞社)の一節が引用されています。今は都会に住んでいますが、私の心はマグロ漁と《海の幸》に象徴される郷土への誇りでいっぱいです。

このたび、吉田さんをはじめとする富崎地区の各区長が中心になって「布良・相浜の“海の幸”を語る会」を呼びかけ、それに応える形でNPO法人南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム(愛沢伸雄理事長)が企画し、12月4日に富崎地区で「“青木繁《海の幸》100年”から布良・相浜を見つめる集い」が開かれることになりました。郷土に誇りと愛情を持てる子どもは、心が豊かです。生まれ育った地域の文化遺産を子どもたちに語り継いでいくことは、文化財保存のための大切な活動といえます。安房地域は人口が減り、子どもが少なくなっているようですが、とくに地元の富崎小や神戸小、房南中の生徒と先生方、それに保護者の皆さんが一人でも多く参加されることを願っています。

エッセイスト 山口 栄彦

NPO法人 南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム

〒294-0047 千葉県館山市八幡822 TEL&FAX: 0470-24-0224

npo@internet-ex.com <http://www.internet-com/npo/index.html>